

名古屋大学の知を高校生に 学びの杜・学術コース 2017

主催：名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属 高大接続研究センター

高校生対象
受講料無料



— 学問の世界を知り、創造的な学びの力を育む —

「学びの杜・学術コース」は、名古屋大学の学問研究の最前線で活躍する研究者たちが、高校生の皆さんを対象に、それぞれの学問領域における知の探究の成果や方法、スタイルなどについて、わかりやすく解説し、知の探究の愉しみと厳しさを体験してもらうという目的で開設された本格的な「学術的な探究講座」です。

大学レベルの高度な「学び」を体験することにより、高校生の皆さんが、各自の適性について、また興味や関心について育み、将来のビジョンを広げたり、キャリア・デザインの形成へと発展できるように企画されています。ぜひ、ご参加ください。

生命科学探究講座

生物多様性からみた生命および、生命を支えるしくみについて学び、生物の進化と多様性を、様々な角度から考えます。

物理学探究講座

「特殊相対性理論」「ブラックホール」「宇宙論と量子論」「観測的宇宙論」について学び、宇宙の誕生やその進化を考えます。

地球市民学探究講座

グローバル化がもたらす様々な問題について学び、異文化理解の方法、地球市民としてのあり方を考えます。

インフラ工学探究講座

インフラの役割と今ある問題、防災・減災対策について学び、安心・安全な生活とインフラ工学の関係を考えます。

電子工学探究講座

実際にトランジスタラジオを製作し、それを聴くことで、「電子工学への第一歩」を体験します。

チーム医療(多職種連携医療)探究講座

少子化・超高齢化時代を迎える日本に必要な「チーム医療(多職種連携医療)」について学び、「住民が地域社会で幸せに暮らせる社会」を考えます。

人文学探究講座

日本の中古から近世の絵画や文学に描かれた人間像を通して、人間とは何かを学びます。

視覚文化探究講座

写真、絵などの視覚情報について学び、そこでどのような思考ができ、役立つのかを、講義とワークショップを通して考えます。

人間発達科学探究講座

教育と人間発達について、教育学部の「生涯教育開発」「学校教育情報」「国際社会文化」「心理社会行動」「発達教育臨床」の5つのコースで学びます。

受講申し込みについて

申し込みは、①受講希望講座名(人間発達科学探究講座はコース名、人文学探究講座は日にち、地球市民学探究講座、生命科学探究講座、物理学探究講座、視覚文化探究講座は受講希望回を明記) ②学校名 ③学年 ④氏名(ふりがな) ⑤住所 ⑥自宅電話番号 ⑦当日連絡可能な携帯電話等の電話番号 を明記し、下記のメールアドレスへお願いします。

◎申し込みは取りまとめず、参加者が直接申し込んで下さい。◎申し込みが多数の場合は、各講座の申し込み締め切り後、抽選をおこないその結果を連絡します。◎会場・場所については、受講許可の案内通知の中でお知らせします。◎申し込み方法は、高大接続研究センターの「2017年度学びの杜・学術コース」のWEBページにも掲載されています。右下のQRコードを読み取り、アクセスしてご覧ください。◎申し込み確認や受講確定等の通知をメールで行いますので、携帯電話やスマートフォンの利用者は、必ず下記のメールアドレスから受信出来るようにしておいて下さい。

〈申し込み・問い合わせ先〉

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属 高大接続研究センター

chet@educa.nagoya-u.ac.jp (なお、高大接続研究センターの「2017年度学びの杜・学術コース」のWEBページからも”受講申し込みメール”を送ることができます。)



生命科学探究講座 SSH 名古屋大学教育学部附属高校 スーパー・サイエンス・ハイスクール授業の一般公開

生命科学について、名古屋大学博物館、理学研究科、生命農学研究科の先生方に講義をしていただきます。

●一定回数受講した受講生には、「修了証」を授与します。

定員：30名	申し込み締め切り：7月7日(金)
担当：名古屋大学博物館、理学研究科、生命農学研究科、中部大学	

1	7月13日(木) 15:00-17:00 担当者：吉田英一(名古屋大学)
	鉱物と生物—地球上の物質循環と生命 地球上の物質循環と鉱物、生命との関係について、鉱物やコンクリーション標本などを用いて講義します。
2	7月14日(金) 14:00-16:00 担当者：門脇誠二(名古屋大学)
	アフリカで生まれた人類が日本人になるまで アフリカで誕生した人類が、いつ、どのように日本列島にやってきたのでしょうか。人類進化史のドラマと日本人の起源の事実についてお話しします。
3	7月19日(水) 15:00-17:00 担当者：東山哲也(名古屋大学)
	花を知る 花は見て美しいだけでなく、植物の種の維持、新種誕生、人類の食糧生産に関わる重要な役割を持ちます。花の内部で起こることについて、研究の最前線を紹介いたします。
4	7月20日(木) 14:00-16:00 担当者：小田裕昭(名古屋大学)
	食べ物がどうやって栄養になるか 食べたものが身体に取りこまれる消化吸収のメカニズムと、それが生物にとってどのような役割を果たすかについて学びます。
5	7月24日(月) 15:00-17:00 担当者：大路樹生(名古屋大学)
	二枚貝から「中生代の海洋変革」を学ぶ 二枚貝を詳しく観察することによって、その構造がその生態と捕食者からの防御と深く関係していることを理解し、「中生代の海洋変革」との関連を学びます。
6	7月28日(金) 10:00-12:00 担当者：東田和弘(名古屋大学)
	生物多様性(Biodiversity)—多様性って何だろう 生物多様性を例に、“多様性”の意味を考えます。多様性は守るべきか否かについて、参加者が自分自身で考えます。
7	7月28日(金) 13:00-15:00 担当者：藤原慎一(名古屋大学)
	骨の形から復元する絶滅動物の姿 恐竜はどんな姿勢で歩いていたのでしょうか？現生の動物の骨や筋肉の特徴から、絶滅動物の姿勢を復元する方法について考えます。
8	8月23日(水) 10:00-12:00 担当者：井上直子(名古屋大学)
	動物生産を科学する 食糧生産、特に動物生産について、現状を紹介しつつ、科学的な解決方法について解説します。
9	8月24日(木) 10:00-12:00 担当者：西田佐知子(名古屋大学)
	植物から学ぶ生物の多様性 植物は地球上に約28万種いると言われていています。なぜこんなに多様なのでしょうか？実際の植物を観察しながら、生物の多様性について考えます。
10	8月24日(木) 14:00-16:00 担当者：大場裕一(中部大学)
	発光生物の科学 様々な光る生き物を紹介し、その発光のメカニズムと最先端研究への応用について解説します。

物理学探究講座 SSH 名古屋大学教育学部附属高校 スーパー・サイエンス・ハイスクール授業の一般公開

今日、科学的に広く受け入れられている宇宙の進化と誕生は、相対性理論、量子論により発展してきました。第1部では「特殊相対性理論」について、第2部では「ブラックホール」について、第3部では「宇宙論と量子論」について、そして、第4部では「観測的宇宙論」について学びます。数学、物理に対して特に興味を持っている生徒向けです。

●一定回数受講した受講生には、「修了証」を授与します。

定員：20名	申し込み締め切り：7月21日(金)
担当：大同大学、愛知教育大学、理学研究科	

	第1部：特殊相対性理論 担当者：齊田浩見(大同大学)
	この宇宙そのもの(ブラックホールなども含む)の姿や成り立ちを解明することは、現代物理学の大きな目標の一つです。そして、宇宙を研究し理解していく上で欠かせない物理学の基礎理論の一つが、特殊相対性理論です。 特殊相対性理論は、重力がない場合の時間と空間の性質を記述する理論であり、例えば次のような結論が得られます： ○速く運動する人ほど時間がゆっくり進み(時間の遅れ)、その速さが光の速さに近づくほど時間の流れは止まっていく。 ○棒が速く運動するほどその長さは短くなり(ローレンツ収縮)、その速さが光の速さに近づくほど棒の長さはゼロに近づいていく。 これらの現象を理解するために必要な数学は、直線と双曲線の方程式です。直線と双曲線の説明もしながら、特殊相対性理論の本質的な基礎事項を講義します。
1	7月25日(火) 10:00-12:00
	特殊相対性理論の基本原則と同時刻の概念
2	7月26日(水) 10:00-12:00
	距離の概念の重要性とミンコフスキー時空
3	8月1日(火) 10:00-12:00
	時間の遅れとローレンツ変換1
4	8月2日(水) 10:00-12:00
	時間の遅れとローレンツ変換2
	第2部：ブラックホール 担当者：高橋真聡(愛知教育大学)
	宇宙には様々な天体や、それらが織りなす大局的な構造が存在しています。宇宙を調べるという事は、それらの天体の形成過程や構造形成が如何なるものか、知る事かもしれません。人類は様々な観測装置と観測手法を駆使して、宇宙のしくみを明らかにしてきました。 第一回目には「宇宙の距離はしご」をキーワードとして、人類が宇宙をどのように理解してきたかを解説します。 また、近年重力波が検出され、ブラックホールの存在が確かになりました。第二回目には、重力波について、ブラックホールの形成やその特徴について紹介します。さらに、最新のブラックホール探査(観測)の現状について紹介します。
5	8月23日(水) 10:00-12:00
	宇宙の距離はしご
6	8月24日(木) 10:00-12:00
	元素合成と星の進化、ブラックホール
	第3部：宇宙論と量子論 担当者：南部保貞(名古屋大学)
	現在の宇宙論によれば、我々の宇宙はある法則に従って膨張しており、その膨張則を表しているのがアインシュタイン方程式であると考えられています。本講義では、様々な宇宙の観測事実をこの方程式がどのように説明するのかを解説し、さらに量子力学を組み合わせることで宇宙そのものの始まりがどのように理解されているのかを紹介いたします。
7	10月7日(土) 10:00-12:00
	重力の物理学と宇宙論(一般相対論を用いた宇宙の進化)
8	10月14日(土) 10:00-12:00
	宇宙の始まりの解明に向けて(量子力学と初期宇宙)
	第4部：観測的宇宙論 担当者：福井康雄(名古屋大学)
	現代の天文学は、宇宙と生命の起源を探ることを目指しています。南米チリの高地に設置した電波望遠鏡「なんてん」は、電波によって星が生まれるプロセスを観測し、「星と銀河の起源」を解き明かそうとしています。最新の観測で分かってきた宇宙の素顔を紹介いたします。 また、宇宙に関して日頃疑問に思っていることを質問してください。疑問に答えながら講義を進めます。
9	1月13日(土) 10:00-12:00
	観測的宇宙論1
10	2月10日(土) 10:00-12:00
	観測的宇宙論2

地球市民学探究講座 SSH

名古屋大学教育学部附属高校 スーパー・サイエンス・ハイスクール授業の一般公開

グローバル化の中の様々な問題―偏見・差別、環境、病気、海外労働など―を取り上げながら異文化理解の方法や地球市民としてのあり方について考えます。

●一定回数受講した受講生には、「修了証」を授与します。

定員：30名	申し込み締め切り：6月28日(水)
担当：環境学研究所、名古屋経済大学、教育発達科学研究科、国際教育交流センター、名古屋外国語大学、愛知大学、国際開発研究所、pHD登竜門推進室	

1	7月1日(土) 10:00-12:00 担当者:小松 尚(名古屋大学) 人口減少時代をどう生きていく？ ご存じの通り、日本の人口は現在減少傾向にあり、このままだと2050年代前半には日本の人口は1億人を切ると予測されています。そこで、人口減少社会の課題や対策について、一緒に、そして前向きに考えてみます。
2	7月2日(日) 10:00-12:00 担当者:中村真咲(名古屋経済大学) 「草原の国」モンゴルの歴史と現在 「草原の国」と呼ばれるモンゴルは、激動の20世紀のアジアにおいて、中国とロシアという大国に挟まれながらも100年にわたって独立を維持してきました。伝統的な遊牧を残しながらも、国際政治の最前線で大国と渡り合いながら独立を守ってきたモンゴルの歴史と現在について一緒に考えていきます。
3	7月8日(土) 10:00-12:00 担当者:高井次郎(名古屋大学) 人種偏見・差別の心理学 人種偏見を持ったり人種差別をしたりすることは、良くないの言うまでもありません。でも、なぜ我々は差別をしてしまうのでしょうか。気づかずに、無意識的に差別をしてしまうこともよくあります。人種偏見を心理学的に解明しましょう。
4	7月9日(日) 10:00-12:00 担当者:星野晶成(名古屋大学) 海外留学のススメ 近年は、学生の間に海外留学を経験することがあまり珍しいことではなくなりました。海外留学するメリット・デメリットは何か？海外留学するとなぜ良いのか？現在の日本の海外留学の動向を踏まえて、皆さんの今後の進路や将来設計の中に、海外留学をどう組み込ませていくかを一緒に考えていきます。社会に出る前に、海外経験を持たないと恥をかく時代がすぐそこに来ているのかもしれない。
5	7月15日(土) 10:00-12:00 担当者:佐藤良子(名古屋大学) 国民的ステレオタイプ ステレオタイプとは何か？なぜ人々は他の国民の人たちに対してステレオタイプを持つのか？こうしたステレオタイプには信憑性はあるか？このような質問に答えていきます。
6	7月16日(日) 10:00-12:00 担当者:福田真人(名古屋外国語大学) 疾病の恐怖:なお今日も続く人間と感染症の戦い 人類はどの時代にも、なんらかの疾病に直面して来ました。天然痘は、かつて日本で疱瘡(ほうそう)と呼ばれ、死病でした。コレラは、19世紀のヨーロッパを襲い多数の死者を出しました。そして、今、AIDSやSARS、エボラ出血熱が、鳥インフルエンザと同様に怖いです。人々はこれらの恐怖とどのように戦ったのでしょうか？
7	7月23日(日) 10:00-12:00 担当者:砂山幸雄(愛知大学) 変わる中国、変わらない中国～巨大な隣国の現在を知る 中国は古来、日本人にはおなじみの国です。現在では中国との人的往来はとても濃密です。しかし、日本人にとって中国は、いまだに理解するのが難しい、付き合いにくい国のようです。その原因を考えることを通じて、現在の中国への理解を深めます。
8	7月24日(月) 13:30-15:30 担当者:岩城奈巳(名古屋大学) 日本人の英語教育における学習不安 日本人は外国語、特に英語を学ぶにあたって、いろいろな不安を感じます。自分の発音がおかしいのではないかと、間違いをすることによって周りの人に笑われるのではないかなど、語学教室の中で多くの不安に直面します。こうした英語学習の不安について、皆さんと一緒に検討します。
9	7月28日(金) 10:00-12:00 担当者:杉山範子(名古屋大学) 気候変動の時代に生きる 地球温暖化が進行し、私たちには温暖化の原因である二酸化炭素の排出を減らす取り組みだけでなく、気候変動への「適応」が求められるようになっていきます。海外や日本の取り組みを参考に、どのような社会を目指すのか考えます。
10	7月29日(土) 10:00-12:00 担当者:足立 守(名古屋大学) 東洋の宝石と西洋の宝石 いわゆる誕生石には、東洋の宝石と呼ばれるヒスイは含まれていません。一方、仏教の経典に登場する宝石にはダイヤモンドやエメラルドはありません。宝石を通して、東洋と西洋の違い、さらには地球環境の違いを考えてみます。

インフラ工学探究講座

道路・鉄道・上下水道・電力施設・通信施設・堤防・港湾施設・防災施設などのインフラの役割を、近年頻発する地震などに対する防災・減災対策と、社会問題となりつつある老朽化の観点から学びます。安心・安全な生活とインフラ工学の関係を考えてください。

定員：25名	申し込み締め切り：7月31日(月)
担当：工学研究科	

1	8月17日(木) 10:00-12:00 担当者:中村 光 橋の老朽化と対策 インフラの代表的な構造物である橋を取り上げ、橋が劣化する原因、橋の状態の診断技術、橋を直すための修復技術を紹介しします。また、名古屋大学の中に世界で初めて作られた点検研鑽用の橋を使って、橋の診断をする臨床実習を行います。
2	8月17日(木) 13:00-14:15 担当者:水谷法美 津波のメカニズムと予測 津波とはどのようなものか？津波の高さはどのように決まるのか？津波の高さをどのように予測するのか？津波に関する基礎知識と最新の技術について紹介しします。
3	8月17日(木) 14:30-15:45 担当者:野田利弘 液状化の発生と対策 どのような場所で液状化が発生しやすいかという発生原因や、液状化が及ぼす影響を、簡単な実験と最新のコンピュータシミュレーション技術を用いて紹介しします。

電子工学探究講座

大震災の時に被災者の頼りになったものにラジオがあります。スマホもPCも使えないときも、ラジオは使えます。ラジオから今何が起きているのか知ることができ、生きていくための大切な情報を得ることもできます。非常用グッズとして必需品のラジオは、電子工学への入り口でもあります。ラジオを試作して、聴いて、電子工学への第一歩を体験してください。

定員：20名	申し込み締め切り：9月1日(金)
担当：工学研究科	

1	9月30日(土) 10:00-12:00 担当者:古橋 武 ラジオから電子工学へ トランジスタラジオの製作を体験します。はんだ付けをしなくても作れるように、工夫してあります。各自が製作したラジオはお土産に差し上げます。今、高校で学んでいる数学・物理とラジオの関係のさわりを解説します。高校数学・物理が(一層)楽しくなるかもしれません。
---	---

チーム医療(多職種連携医療)探究講座

我が国は超高齢社会を迎え、地域医療現場にも時代にあった新たなシステムや考え方が求められています。その一つが「チーム医療(多職種連携医療)」です。医療機関だけでなく地域社会で、在宅医療、訪問看護、服薬指導、リハビリ、介護、福祉から社会活動までをつなげることで、すなわち、多職種協働によるチーム医療の提供により、1人1人の住民が、地域社会で幸せに暮らせる事を目指しています。

定員：15名	申し込み締め切り：8月4日(金)
会場：名古屋大学医学部(鶴舞キャンパス)	
担当：医学系研究科地域医療教育学寄附講座	

1	8月28日(月) 13:00-16:00 担当者:岡崎研太郎、高橋徳幸、末松三奈 チーム医療(多職種連携医療)について学ぶ なぜ、チーム医療が求められているかをご存知ですか？医療機関では医療安全の観点、患者ケアの質の向上、医療の効率化をはかるため、多職種協働による医療、すなわちチーム医療が求められています。また、少子化および超高齢社会を乗り越える社会モデルとして、厚生労働省は地域社会における多職種連携を推奨しています。本講座では、病院設備見学などの機会を通して、多職種が協働して行うチーム医療について考えたいと思います。
---	--

人文学探究講座

文学部では人文学を学びます。人間のさまざまな営みを通して人間について考える学問が人文学です。過去の、そして現在の人間がどのような存在であるかを知ることが、未来に向けてもとても大切なことです。講師の案内で、人文学の広い世界をのぞいてみてください。

●二日間の出席を前提としていますが、一日のみの受講も受け付けます。すべての授業を受講した受講生には「修了証」を授与します。

定員：50名	申し込み締め切り：8月23日(水)
担当：文学部	

8月30日(水) 10:30-12:00	担当者:伊藤大輔
1 「鳥獣戯画」を読む	
国宝「鳥獣人物戯画」は、動物や人間が遊び戯れる様を墨の線だけで生き生きと描き出し、今ではキャラクター商品にもなる程親しまれています。ですが、この絵巻物には詞書(ことばがき)がなく、本当は何を描こうとしたのか現在でも分かっていません。絵巻を見ながら作品制作の意図を考えて行きます。	
8月30日(水) 13:00-14:30	担当者:大井田晴彦
2 王朝物語と絵画	
平安・鎌倉時代には数多くの王朝物語が書かれ、流行していました。それらは絵を伴って読まれていたようです。絵画的想像力が物語に与えた影響、物語の絵画化(国宝「源氏物語絵巻」など)といった問題について考えます。	
8月31日(木) 10:30-12:00	担当者:伊藤信博
3 環境と文学	
室町文学には擬人化された動植物が描かれ、その成立には、「草木国土悉皆成仏」思想が関係していることが解明されています。その思想を分析し、その思想が我々にどのような問いかけを発しているかを、自然環境中心に考えます。	
8月31日(木) 13:00-14:30	担当者:斎藤夏来
4 家康の神格化と画像	
徳川家康は「東照大権現」という神様であることを知っていますか？私たちがよく見る家康の肖像画は、実はご神体なのです。このご神体は、自分がどのような神様なのか、一生懸命に語っています。一緒に耳を傾けてみましょう。	

視覚文化探究講座

現代は、視覚情報の時代です。写真、映像、アニメ、ゲーム、TV、インターネット、SNSと、とんでもない量の情報が、ひっきりなしに目に飛び込んできます。私たちは、それらを日々受信し、理解し、そして発信しながら生活しています。この講座では、視覚情報について知り、そこでどのような思考ができ、また役に立つのか、講義とワークショップを通して体験し、考えていく機会を提供します。

定員：25名	申し込み締め切り：8月10日(木)
会場：名古屋大学情報学部 SIS スタジオ	
担当：金城学院大学、名古屋芸術大学、情報科学芸術大学院大学	

8月21日(月) 10:00-12:00	担当者:遠藤潤一(金城学院大学)
1 伝わるデザイン・ポスターの作り方	
ポスターやチラシなどのデザインをどうしたら見やすくできるでしょうか。ポスター作りに役立つデザインのポイントを解説します。	
8月21日(月) 13:00-15:30	担当者:茂登山清文(名古屋芸術大学)
2 ポートレイト写真を見る／撮る	
現代文化の最前線、写真表現では何がおきているでしょう。それを紹介しながら、ポートレイト写真にチャレンジし、楽しみましょう。	
8月22日(火) 10:00-12:00	担当者:鈴木宣也(情報科学芸術大学院大学)
3 絵で考えよう	
普段考える時、言葉による場合が多いと思いますが、絵で考えることもできます。絵を使って考える方法を体験してみましよう。	
8月22日(火) 13:00-15:30	担当者:水内智英(名古屋芸術大学)
4 気づきを得る手法としての観察と描写	
デザインにおいて基本となるスキルである観察と視覚化、そしてそこからの気づきについて考えます。	

人間発達科学探究講座

教育と人間発達について探究する5つのコース、『第1コース[生涯教育開発]:私たちはなぜ学ぶのか?(社会のなかの学校)』『第2コース[学校教育情報]:家庭と学校の協力による未来の学びの創造』『第3コース[国際社会文化]:異文化との出会いと自己発見のドラマ』『第4コース[心理社会行動]:世界の見え方・聞こえ方』『第5コース[発達教育臨床]:ストレスに対処する』を開講します。

●各コース別に募集します。受講希望が多数の場合は、抽選となります。複数のコース選択可。全コースを修了した受講生には「修了証」を授与します。

定員：各コース50名	申し込み締め切り：各コースの実施2日前
担当：教育発達科学研究科	

第1コース [生涯教育開発]	担当者:吉川卓治、石井拓児
7月31日(月) 10:30-16:15(休憩12:00-13:00)	
1 私たちはなぜ学ぶのか?(社会のなかの学校)	
学習活動は、「人々を、なりゆきまかせの客体から、自らの歴史をつくる主体にかえる」(ユネスコ学習権宣言)ものだと言われています。日本社会で形成されてきた「学歴社会」とはどのようなものだったのかを歴史的に振り返るとともに、過労死問題を手がかりにしながら、社会をつくる主体(=主権者)になるための本当の学びとはどのようなものを、皆さんと一緒に考えます。	
第2コース [学校教育情報]	担当者:サルカール アラニ モハメッド レザ
8月16日(水) 10:30-16:15(休憩12:00-13:00)	
2 家庭と学校の協力による未来の学びの創造	
「学ぶ」と「教える」との関係について、家庭教育、学校教育などの多角的な視点から考えます。特に、家庭と学校の協力を通して、「未来の学び」をどのように創造することができるのか、一緒に検討しましょう。	
第3コース [国際社会文化]	担当者:西野節男、服部美奈
7月15日(土) 10:30-16:15(休憩12:00-13:00)	
3 異文化との出会いと自己発見のドラマ	
現代社会は、グローバル化が多くの問題をもたらしながら加速的に進展していく社会です。このコースでは、言語・文化・宗教的に多様性をもった国や地域の「学校」に注目して、異文化を体験し、次にその体験から自文化を再発見し、自己を表現しながら、相互理解の重要性について考えていきます。	
第4コース [心理社会行動]	担当者:清河幸子
8月7日(月) 10:30-16:15(休憩12:00-13:00)	
4 世界の見え方・聞こえ方	
私たちは、外界から多種多様な情報を取り入れながら生活をしています。目や耳から入ってきた情報はどのように処理されているのでしょうか?本コースでは、モノを見たり、聞いたりする際に私たちが行っている情報処理のクセについて、簡単な心理実験を通じて体験的に学びます。	
第5コース [発達教育臨床]	担当者:五十嵐哲也
7月21日(金) 10:30-16:15(休憩12:00-13:00)	
5 ストレスに対処する	
現代社会は、ストレスに溢れていると言われてます。しかし、同じ出来事に直面しても、ストレスを感じる人とそうではない人がいます。このような違いはどうして生まれてくるのでしょうか。そして、ストレスを感じた時にはどうすればよいのでしょうか。自分の生活を振り返り、明日からの生活に活かせる知識を学びましょう。	